

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 30 年度第 6 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 31 年 1 月 15 日 (火)
午後 15 時 00 分から午後 19 時 00 分
2. 開催場所 東京大学理学部 1 号館 336 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)
3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 17 名 (定足数 11 名 会議成立)
4. 議長 理事 川幡 穂高
5. 出席役員
理事 市川 洋
理事 ウォリス サイモン
理事 小口 千明
理事 川幡 穂高
理事 河宮 未知生
理事 木村 学
理事 倉本 圭 (Zoom 出席)
理事 中村昭子 (Zoom 出席)
理事 成瀬 元 (Zoom 出席)
理事 田近 英一
理事 中村 正人
理事 浜野 洋三
理事 日比谷 紀之
理事 古村 孝志
理事 松本 淳 (Zoom 出席)
理事 道林 克禎
理事 村山 泰啓
監事 加藤 照之
監事 氷見山幸夫

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 高橋 幸弘

固体地球科学セクションバイspreジデント 大谷 栄治

水文・水資源学会 飯田真一(寶 馨学協会会長会議議長 代理 Zoom 出席)

午後 15 時 00 分、定数に達したので川幡穂高会長が開会を宣した。インターネット電話 ZOOM を利用し、遠隔地から参加する倉本理事、中村昭子理事、成瀬理事、飯田真一委員が審議に参加できることを確認した。

7. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を審議した。これを承認した。

第 2 号議案 寄附について

川幡会長から寄附に関するタスクフォースの設置について提案があり、審議した。古村副会長を委員長として、会長、副会長、事務局長、総務委員長、財務委員長、財務担当事務局員、その他寄附について見識の深い方をメンバーとするタスクフォースの設置を検討し、これを承認した。基本的に、寄附に関する方針や実際の手続きに関する部分と可能であれば本年度までの寄付をベースに税額控除団体となる 2 つのテーマで議論を行う。特に、後者については、コミュニティ（代議員と JpGU 会員）向けに税額控除の制度や寄附の用途について説明する文章を検討することとなった。

第 3 号議案 2020 年 JpGU 大会準備のためのタスクフォースの設置について

川幡会長より 2020 年 JpGU 大会準備のためのタスクフォースの設置について提案があり、これを承認した。タスクフォースのヘッドは末広潔国際プログラムコーディネータに依頼する。メンバーについては各委員会から推薦を募るが、次世代へのバトンタッチができるよう積極的に若い方の推薦を募る方針で対処する。さらに、委員のダイバーシティも重点をおく方針を確認した。なお委員として財務委員会からの委員を、アドバイザーに情報システム委員会委員長を追加する。

第 4 号議案 2016 年-2018 年 JpGU 大会の実施状況についての報告文

前回理事会で 2016 年大会から 2018 年大会の実施に関する財政状況の整理と 2019 年以降の大会の運営方針について会員に示すことが承認された。この報告分の文案について審議

した。基本的には承認とし、細部の文言を微調整して公表する。公表の仕方については、概要と詳細編にわけると、会員になるべく内容を伝達できよう努力することとなった。

第 5 号議案 所属機関払いによる支払い方法の改廃の検討について

現在、年会費、大会参加登録費、投稿料の決済方法としては基本的にクレジット払いにて受け入れている。ただしクレジット払いの難しい会員のために機関振込（請求書払い）を用意している。この機関振り込みの場合、機関からの振込が通常の手続きよりかなり後になったり、会員名の確認に時間・経費コストがかかるという問題がある。また個人の支払いの場合は振込の場合事務手数料を申し受けているので、不平等となっている。したがって、この機関振込（請求書払い）を改廃することを検討した。JpGU は公益社団法人なので、公平性と効率性を高める観点から AGU、EGU 等の国際学会の原則と同様に、基本的に「支払いの完了者が大会に参加する」こととする。今年一年を周知期間として、来年の大会から機関振込（請求書払い）廃止することとした。

第 6 号議案 2019 年度の予算

ダイバーシティ推進委員会の予算について、保育ルームの費用が前回の予算案では抑えられないことがわかり、委員会との面談を行った結果、上方修正をおこなった。プレジデンシャルレセプションの予算についても同様の処置をすることとなった。
基本的に承認とした。

第 7 号議案 教育検討委員会教員養成等検討小委員会の廃止

教育検討委員会教員養成等検討小委員会の廃止を検討した。これを承認した。

第 8 号議案 フェロー審査委員長承認の件

フェロー審査委員長を承認した。

なおフェロー審査委員会規則第 6 条に基づき、現段階では公表しない。

第 9 号議案 西田賞審査委員長承認の件

西田賞審査委員長を承認した。

なお審査委員会規則第 6 条に基づき、現段階では公表しない。

第 10 号議案 男女共同参画学協会連絡会からの要望書および声明文の修正案

前回理事会で承認した男女共同参画学協会連絡会からの要望書および声明文について、他学会からの提案を踏まえた修正案を検討した。これを承認した。

7. 報告事項

1. 川幡穂高代表理事職務報告

Geoethics（ジオエシックス）に関連し、古村副会長を委員長とするタスクフォース設置の提案があり、これを承認した。Geoethicsについては、ハラスメントの他に、地質災害や気候変動研究と社会の関係、地球惑星科学に関する倫理、オープンサイエンスに関する倫理などを中心に検討を始めることとなった。メンバーについては今後、検討する。最終的に、2020年のJpGU-AGU共同開催時にユニオンセッションなどで、成果を発表できればと期待している。学協会長会議幹事会の活動について報告があった。関連学会の学会員数の動向調査について検討中であるが、現状としては検討が遅れている。

連合大会での参加者アンケートについて、3月までに案を作成し連合大会で実施し参加者の意向をきちんとくみ取ろうということとなった。

2. ウォリス理事（グローバル戦略担当）職務報告

グローバル戦略委員会の活動報告があった。AGU Fall Meeting 期間中に AGU 執行部との breakfast meeting、JpGU-AGU joint meeting に関する打ち合わせを行った。

AGU Fall Meeting の参加・出展報告があった。

EGU との MOU の更新について検討している。現在では EGU 側には会員にならなくても会員料金を JpGU 大会に参加できる。2年の契約を結び、2年後の契約時には改訂を検討する。

オープンサイエンスに関する世界情勢について情報交換があった。

JSPS のワシントンオフィス訪問の報告があった。

2020年のJpGU-AGU共同開催時に向けて、グローバル戦略委員会とJpGU大会準備のためのタスクフォースが共同で会議をもち、その理念などについて検討することとなった。その議論を進める上での key words として「Anniversary」, 「アジア」, 「夢ロードマップ」などがコメントとして提示された。

3. 田近英一理事（広報普及担当）職務報告

広報普及委員会の活動報告があった。12月27日に開催した高校生のための冬休み講座2018の開催報告があった。

4. 西弘嗣理事（総務担当）職務報告

日比谷理事が代理で報告を行った。連合が承認した協賛、後援について報告があった。国立大学教育研究評価委員会専門委員及び機関別認証評価委員会専門委員の候補者の推薦については募っていたが推薦依頼がなかったため、連合からは推薦しないということとした。

また事業計画・事業報告を作成しており、事業計画は3月理事会、事業計画は5月の理事会に提出する。

5. 大会運営委員会活動報告（浜野理事）

2019 年大会準備状況について報告があった。会員システムの業者変更により、システムのメンテナンス期間を設け、データの移行を行った。現在は正常に機能している。

大会についての連絡事項はメールマガジンに網羅して掲載しているが、新プライバシーポリシーに同意していない会員委はメールマガジンが送られていないので、プライバシーポリシーには同意してほしい。またそれらの方のお知らせを届ける方法は今後も検討する必要がある。

今大会からシニアの参加登録費が有料となったことについて報告があった。

SNS を利用したポスター発表の募集を開始したことについて報告があった。

学割承認の締め切りを 5 月 8 日に設定したことについて報告があった。以降は学生であっても学生割引が適用されず、一般料金でのみ参加登録が可能となるため、締切については周囲の皆様にも注意喚起をお願いしたいという依頼があった。

法律改正によるセキュリティ強化対応のための大会受付運営の変更について報告があった。昨年までは PC を用意して、e チケットの印刷を忘れた方や現地での参加登録に対応していた。しかし割賦販売法の改正により、運営側が用意した PC にクレジットカード情報を入力させることができなくなった。これによって従来のような PC コーナーを用意しないこととなった。ただどうしても必要な参加者のため、受付周辺に代行窓口を設けることとした。ただしこの代行作業には事務手数料がかかる。

6. 危機管理検討 WG 活動報告（道林理事）

危機管理検討ワーキンググループの活動について報告があった。前回の理事会で承認された通り、連合大会の非常時対応についての文章を作成し、参加登録開始と同時に公開した。現在マニュアルについてもグループで制作中である。

7. 教育検討委員会活動報告（市川理事）

教育検討委員会の活動報告があった。

- ・平成 30 年度教員免許状更新講習を実施した。2 講習を用意したがそのうち 1 講習は申込者がなかったため、1 講習のみの実施となった。告知に不足があったため、2019 年度からは更新の必要な教員が増えることもあり、告知に力を入れることを検討中である。
- ・第 11 回日本地学オリンピック予選を実施した。
- ・第 13 回科学地理オリンピック日本選手権第 1 次選抜試験を実施した。
- ・日本学術会議地球惑星科学委員会地球惑星科学人材育成分科会を開催した。
- ・アースサイエンスウィーク・ジャパン 2019 開催に向けて準備を検討している。
- ・連合 2019 年大会パブリックセッションの開催に向けて準備を進めている。
- ・教育検討委員会のホームページを開設した。地学教育に関する情報を共有していく予定である。

8. 顕彰委員会活動報告

現在の連合フェローの人数について検討があった。現在のフェローは95名である。当初会員の1%程度という目標を定めており、これは現在80名程度になるため、すでに超過している。

今回のフェローもすでに募集しているので、極端な人数制限を設けることは難しい。10名以下程度を見込んでいるとの報告があり、了承した。

9. ジャーナル編集委員会活動報告（倉本理事）

ジャーナル編集委員会の活動報告があった。投稿受付、編集状況について報告があった。出版数は2017年から倍増している。

Springer との契約更新を行い論文契約料での投稿受付を開始した。また委員会開催広告があった。

10. その他

情報システム委員会から報告があった。

- ・日本学術会議で課題別委員会「オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会」が発足した。
- ・内閣府から閣議決定された統合イノベーション戦略に「知の源泉」としてオープンサイエンス関連の文章がもりこまれた。
- ・WDS のプロジェクト「CoreTrustSeal」が始動した。データ保存機構の国際的信頼認証をコミュニティベースの non-profit で立ち上げた。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後19時00分)
以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席理事は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

平成31年1月15日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第6回理事会

出席理事

川幡

穂高

印

出席理事	市川	洋	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	河宮	未知生	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	倉本	圭	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	中村	昭子	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	成瀬	元	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席理事	松本	淳	印
出席理事	道林	克禎	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	村山	泰啓	印
出席監事	加藤	照之	印
出席監事	氷見山	幸夫	印